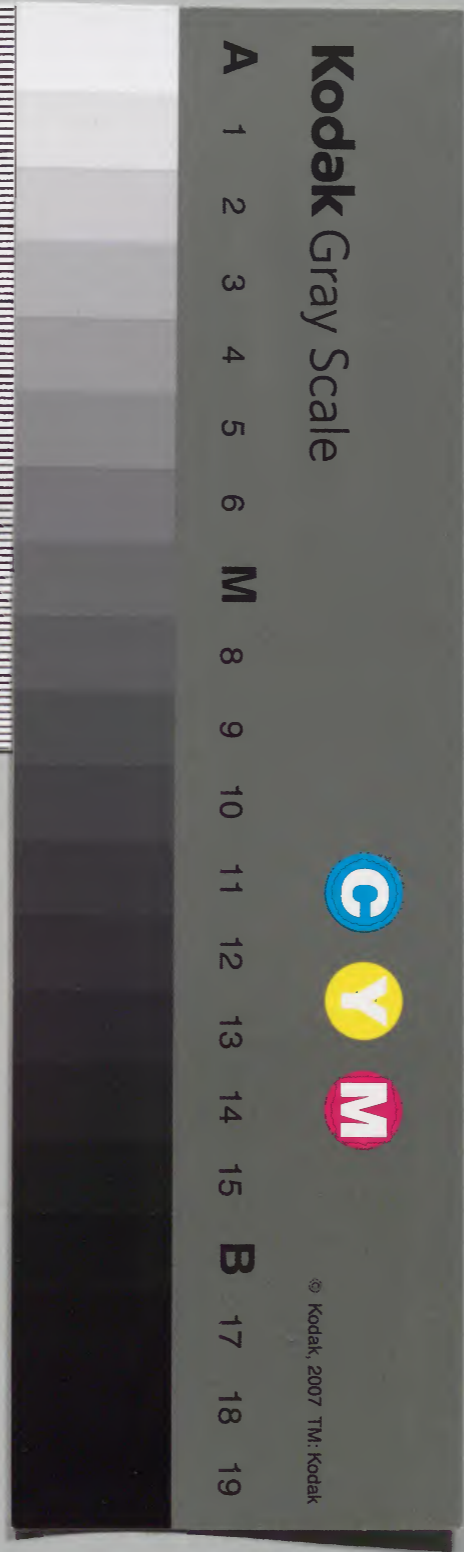


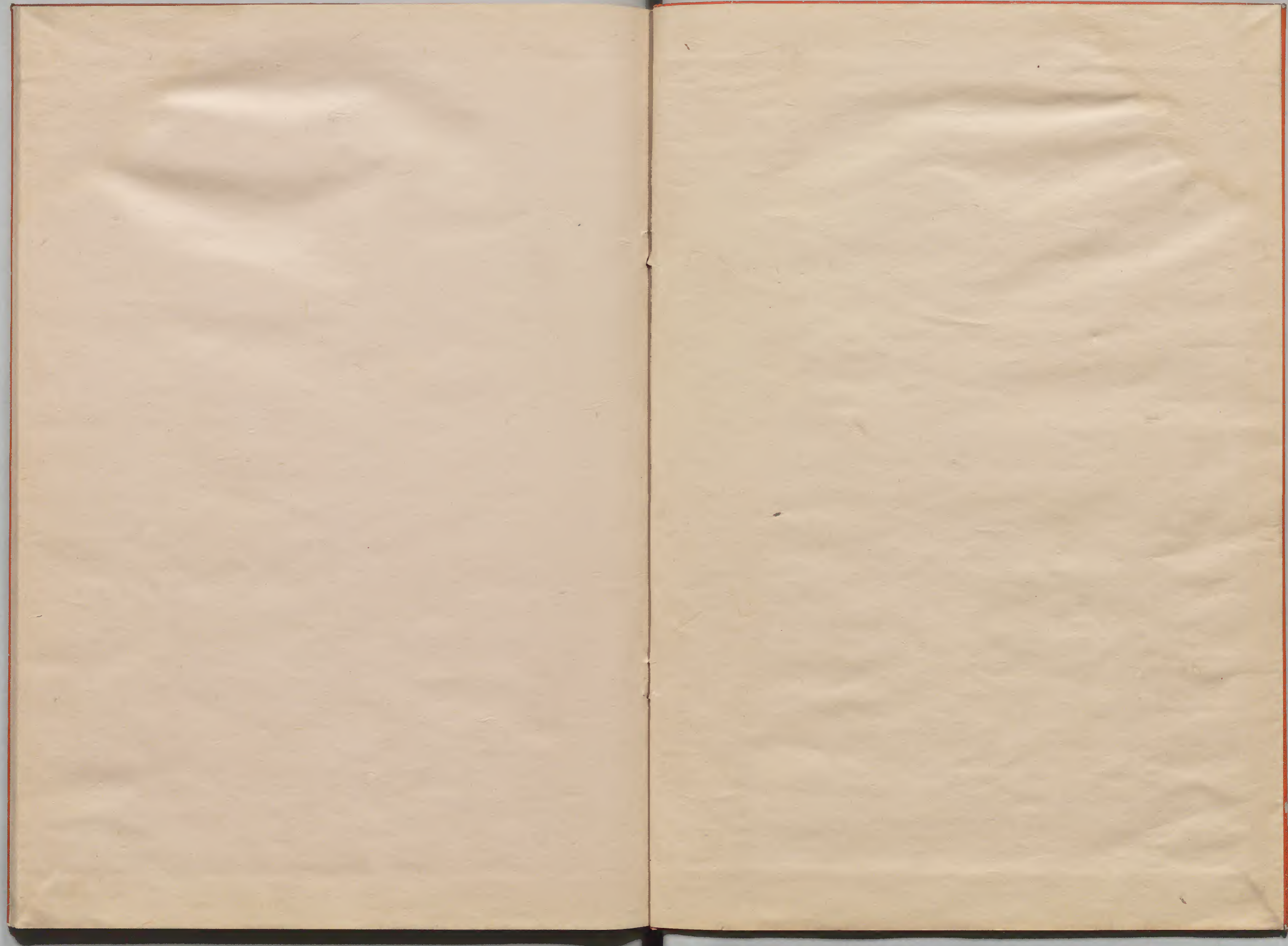
和子

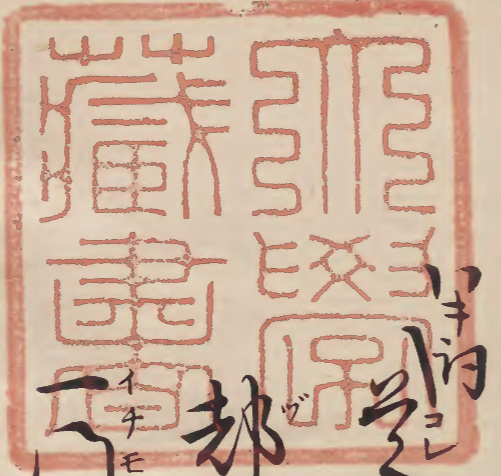
			二四七二九	和書門
二	一	六	二	類
二	一	六	九	
冊	架	函	號	

庫	文	閣	內	
九	二	四	二	和
九	一	七	二	書
函	一	二	九	類
一	二	九		
架	冊	號		

內閣文庫		
番號	和	24729
冊數	212 (22)	
函號	199	216







仁和寺乃宮ノ住申傍

却行慶多ク假出ても卒家の

一但馬守經政未童形の時々

里君の歌亦し解に作然今度

西海の合戦に付れおひえん又青

山中の現習六經政お生の時

祇下さわぐん假清琵琶を傳

淺草文庫

あよす急直筆結をか一帛ひ
せせの山変まへり程よ役者
をありや後柔身や一村の陰よ宿
里河の流も波にせも皆こ
れ他生乃縁より悔してまた
福ん乃此値遇恵と涼くけま
くも糸も宮の中少く法変を

あて終夜平の経政成等正
笑とあひ終る有難さよ
よ又皮書山少く云ひ巻を
亡者の唇も向き同トく琴
笛の声も佛子とあはれて
夜乃法の門貴賤のちも音
りやく
和風枯木を吹ハ晴

正の兩月年破を照せば夜ノの夜
乃志もの木き居も安ヤスくして
里よんてつる草乃陰露の光を
く消滅れ亡物の縁こころけふ
形もれ 不思議を明早深文
不威まの夜の光あつる内
よ人親の破きいつる其ようほひ

二、經政をすまへぬり 象經
政がま異あるが居居ひの有難さよ
そ遠破き糸ありたり けりも
經政のま異あしきよれ方をとん
あをれを又きくこと けりも
て 声いぬよけれども けりも
く刃さける人親の 有りやとれ

あゝ不思シ系ケイのノりリやヤ 糸イト若ニク年ネン

のノ管カンよりヨリ宮ミヤのノ仲ナカはハ糸イトありアリ世セとトよヨ名ナ

とトきキもモもモ備ヒはハ君キミのノ流リウ思シはハ

ありアリ中ナカもモもモ回ヘ下ゲさサるルまマ同ドウ山サン

のノ流リウ思シはハ海カイ女メ時トキあアめメくクのノ流リウ格カクさサれ

とト糸イトりリ常ジョウはハ年ネン一イチ回ヘのノ結ケツよヨ

今イマもモむム心ココロなナまマしシはハいイたタ

ふフ極キョク音オンのノ是シがガ正テイしくク妙ミョウ音オンのノ極キョク

あアまマべベーーはハまマけケ經キョウ政テイがガくクまマ

若ニク年ネンのノ昔ムカシよりヨリかカまマにニ義ギはハ

智チ信シン乃ニ又マタ常ジョウとトまマりリつツ内ウチはハ又マタ

花ハナ乃ニ月ツキ詩シ乃ニ管カン法ホウをヲ考カウとト

いイ春ハル自ジ秋アキとト春ハル陰インのノ草クサ乃ニ露ツユ水ミヅ

あアいイれレ世ヨ乃ニ心ココロはハもモ花ハナもモあアりリ

亡者の為めは何よりも

安んずる年 洲の翠

冬を 雲を 烟く 向の管

弦 進れば 亡者 志を 立より

灯の影 人あはれ ぬ物 あり

年 向の 志を 志す 時

も 比ハ 夜半 樂 眠りを 夢に 柳

花ふ かしきや 晴たる 空より

曇り 像り 像り 雨の音

志きりよ 草を 拂ひつ 時の 雨子

も みる みる 雨あく 空を

里 あり 山 雲の 端乃 月

み あり 志の 園乃 松の 影

て 村 雨乃 音 伝 あり

たし志ろや柳あなるありきる大
ほろくやし一は雨のごと
一さそ小ほろく切して松
一しこあさあは第一柳このほ
ほろくやし一秋の風雲を拂
つ練顔あか之第一のほ
冷やして夜の鶴の子は思あ

この内よ鶏も心して夜ほ乃
別ほあさあよ一音のほとらん
秋素嵐の雲と動せ鳳凰も
そよあそく目のあし飛くよ
如をほほほ舞ほべは律呂の
者ほほ情勢ほほほあ
とまほあし蒼とほほまほ乃

袖衣がさぶを迫りき面白の夜
梅をあたもあろのむうや
あな妙惜乃夜梅を明あ
うをやう適偏浮のを梅よ
久り心をとる折しに又味
悲のあさうや
みはく人衆の物あはれは
経

段うあゝ死やあなまへ人に
刀き刃ぞやあ乃灯を者
あよ妙を背きそ
あ憐せ深夜の月をもかよに
や帝釋供羅の我火をとら
志んわ乃牆火を雨とあ
よあもは拂し剣他を思

飛ぶやうなときれいさうをばうへいで
猪火とあれやうとるく苦患は
づーやうなものはくど物をあの
火と者さんやして具身ハ愚人
友の歩乃火とをらんや死
尻とたう灯火あーとたよ
火を吹きさうさうぬぎれさう
カ

解明を失うきらましくせい乃
新うせよきり

